

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295400143		
法人名	有限会社ジュコウ		
事業所名	あったか広場一会 2F		
所在地	静岡県島田市東町1116		
自己評価作成日	令和6年6月24日	評価結果市町村受理日	令和6年10月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajirokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanji=true&jiyogyoCd=2295400143-00&serviceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和6年7月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナが5類になり、徐々にではあるが面会や外出などを緩和し、ご家族様との面会やレクリエーションとして認知症カフェを毎月第3土曜日に開催。しまトレも毎週金曜日に開催するなど、他にも花見などのドライブ、感染症対策をしながら焼津の喫茶店にナポリタンと超特大のプリンを食べに行ったり、蓬萊橋への外出や音楽療法など施設内外での活動を増やし入所者様の生活の質の向上に向けて支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

5類に移行して再開を果たした島トレは、移動スーパー「とくし丸」の来所日に合わせる工夫で活気を増したほか、認知症カフェ活動後の小腹を満たすために始めたカレー提供は、島トレの参加者も増える相乗効果となっています。移動スーパーの品揃えは豊富ですが、利用者にはバナナと黒はんぺんが人気で、一方地域からの島トレ参加者も総菜を買って帰るのを楽しみにしている様子です。身体を動かす機会とともに地域交流の場があり、買い物を通じて社会参加を続けることができ、さらには音楽療法や喫茶店訪問といった外出企画が繰り返しにあり、多様なケアサービスとおもてなし精神によって利用者の笑顔が生まれていることを視認しまし

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定期的に理念を把握できているかを確認している他、各フロア入所者様に見える所に貼付し周知している。	理念は職員の目に入る場所に掲げ、1年に1度抜き打ちテストもおこなって浸透状況も把握しています。家族アンケートの内容からは理念を押しえた実践があることが伝わるとともに、実際「個別ケアとチームケアをのバランスがよい」と上位者も自負しています	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	週1回、施設の駐車場に移動スーパーが来てくれる他、月1回認知症カフェを開催し近隣の方々と交流を図っている。	認知症カフェでは軽食をふるまうことで小さな子どもがいる家庭の支援にもなり、盛況となっています。電気治療器の無償使用も復活しており、移動スーパー「とくし丸」とともに島トレのついでに便利に利用する人もいます	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座や認知症カフェなどを開催し、認知症への理解をしていただける様に対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を活かし、サービス向上への意見を各参加者よりいただき、地域貢献に取り組んでいる。	運営推進会議は行政と地域から5名、事業所から4名、総計9名で構成され、双方の取組みへの意欲の高まりを感じます。また行政からは活動への評価や提案、地域からは貴重な情報が入っていて有意義な場として発展しています	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市と連携が図れるところは日頃より協力させていただき、連携を図っている。また、市の会議や運営推進会議を活用して質問している。	毎月の認知症カフェ、毎週の島トレ、電気治療器の提供と、事業所の地域への資源還元は多様です。また島田市から本人が入院中に話が持ち込まれ、後に市民後見人がついたケースもあり、行政や地域から役立つ事業所として信頼が積み重ねられていることが覗えます	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会にて身体拘束廃止への研修やケアの内容を精査して常に拘束ゼロに取り組んでいる。	虐待防止検討委員会と身体拘束廃止委員会を設置しており、議事録は全職員が供覧しています。理念に基づくケアサービスの実践があることで虐待はあり得ないとともに、本年は夏祭りを通じてやっと家族がフロアに入ることができ、安心材が増えています	拘束については利用者本人の安全や命に関わることは必要として、その是非を適切にジャッジするとともに、違反(減算)とならないよう書面等手続きについて職員に周知することを期待します
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し、高齢者虐待防止法について研修を行っている。また入所者様が事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い防止の努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各種制度について、研修を行い理解を深めている。またフロア会議を利用し必要性についても話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、しっかり説明し、納得していただいている。また、説明後でも納得がいかなければ説明する事を伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3か月に1度近況報告を出し、入所者様の様子を伝えている。その他LINEを活用し意見を反映している。また、毎月あったか広場通信を郵送している。	毎月の「あったか広場通信」にはレクリエーションや行事の報告があり、また四半期毎に日頃の様子を居室担当者が手紙にしたためて届けています。ショートメールの人もいますが、約半分の家族がLINEでつながり、気軽なやりとりができる関係を築いています	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回全体会議、フロア会議を開催し、職員の意見を聞ける機会を行っている。	全体会議では「リネン交換を忘れないようにするためには」など現場が抱える課題を話し合い、解決を図るとともにワンチームの絆を高めています。また「利用者の笑顔に癒される、疲れも飛ぶ」というポジティブ・デビエンス的な職員もいることも職場環境を高めています	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月第3火曜日に全体会議を開催し、職員の意見を聞く機会を作っている。また、職員にアンケートをとり、具体的な意見を把握するように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月社内研修を行い、スキルアップを図っている。必要時は外部講師に来て頂いたり外部研修への参加を推進している。介護技術に関してはアセッサーを持っている職員によるOJTを行い質の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	包括支援センター主催の研修、交流会への参加や2ヶ月に1回のグループホームの連絡会にも参加し、交流を図っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にヒアリングをご家族に記入していただき、ご本人の好きなものや嫌いなもの等を把握し、安心を確保している。また、居室担当を決めご本人の要望になるべく応えるよう心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	担当者会議を開催し、ケアマネ、介護職員がご家族様の要望を聞きケアに活用している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の意思、ご家族の要望など話ができる環境作りを心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のできる事、できない事を一緒に考え支えあう環境を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月あつたか広場通信を発行し出来事を共有している。必要時は電話やメールまたはLINEで連絡している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人と電話やスマホを使用して支援に努めている。	アイパットで家族とテレビ電話をおこなう人や、携帯電話をもつ人もいます。またアクリルたわしをつくったり、持ち込んだ仏壇を毎日拝む人もいます。フラワーアレンジメントや梅の実のへそ取りなど事業所で推進したものが定着したことで、馴染みとなった行事もあります	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人1人の個性を把握して、関わりあえる環境作りやレクリエーションを行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、地域定着という事もあり、ご家族等の相談支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴時やレクリエーション、余暇時間を利用し、できる限りの思いを聞き、対応内容を職員、ご家族と検討し、対応している。	テレビ放映で巨大プリンを提供している喫茶店を知った利用者のリクエストで出掛けたこともあり、要望には出来る限り応えています。一方で1対1では警戒心をもたれてしまうような状況では、レクリエーションの輪の中で質問を投げかけるといった工夫も図っています	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族様に生活歴などを聞かせていただき、サービス提供に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々ご本人の状態観察を徹底し、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロア会議、担当者会議でカンファレンスを行い、職員で話し合い計画作成を行っている。	計画作成担当者は各ユニットごと配置していません。家族の署名は郵送などに委ねず「必ず顔を合わせて」を励行し、短期目標の期限前に家族にサービス担当者会議の案内をおこない、「1年に1回以上家族に直接意見をうかがう」ことが100%遂行されています	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画記録、排泄記録、日報、申し送り等の記録を徹底し、情報の共有を図り実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人に聞き取りをし、ご家族様に対応できないことを柔軟に対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に数回音楽療法の先生を招いたり、週1回移動スーパーにてご本人が買い物を出るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携を図り、適切な医療を受けられる様にご本人、ご家族様を支援している。	従来からの医院は家族が受診支援をおこない、家族が無理と場合は事業所の協力医へと職員が支援しています。7名が在宅の頃からの医師を続けており、医師のリクエストだけでなく、看護師が必要と判断した場合にはバイタル記録などを家族に預けて渡します	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に日々の状態を伝え相談できる環境を作っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護サマリーを作成し、病院関係者と協働できる様努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人とご家族様の意見、意向を伺い主治医の意見相談などをして、支援に取り組んでいる。	終末期のことは契約段階では話し合いをおこなっていません。変化があったとき「延命措置なし」などの要望を確認しています。家族が看取りを要望したときは取組について検討しますし、移設希望であれば探す協力は惜しみませんが、現在看取り体制は整っていません	「看取りをおこなわない」とする事業所もありますが、当事業所では「意向には応えたい」とのことですので、職員教育などそのときに備えた準備を進めることを期待します
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを定期的に再確認し、年1回AEDの操作方法を含めた救急講習を行い実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年2回総合訓練を行い、地域の消防団の方や消防署の方々と連携を図り、災害時の対応を確認している。	主に地震想定で、そこから火災という設定もあり、通報訓練も含み年2回の法定訓練を実施しています。終了後は意見交換会を開催、わかりにくい点などを確認し合うことも併せて出ています。ただ、新人を必ず訓練に参加できるようにシフトを調整することは未着手です	2階と3階のフロアという環境に車いすの利用者もいることから、避難は時間計測をおこない、時間がかかる原因があればそれを改善するよう期待します

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人に配慮した声かけをし、入浴、排せつ等はプライバシーに充分注意して行っている。	「ご利用者の個人情報の保護に関する同意書」を交わしています。利用者が敬語で話すとわからなかったり、嫌がることもあることから、現場では失礼にあたらぬ範疇で嫁や娘のようにフランクに接することが慣習となっています	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が自己決定が出来るように伝えやすい環境づくりを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の事を知り、レクリエーションや入浴などを本人の希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1~2回訪問理美容に来ていただいたり、ご本人の好みに合わせ、実現できるように支援している。また、美容部員のボランティアに来てもらいおしゃれができる様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事やおやつ準備、片付けなどご本人に伺いながら手伝っていただき、食事を楽しむ支援をしている。	日曜日は業者搬入のチルドを温めていますが、平日は専任の調理職員が1階の厨房で手作りして、季節の食材をふんだんに取り入れた栄養豊かな献立は家族にも好評です。また梅ジュースをつくったり、おやつレクではデコレーションや盛り付けも楽しんでます	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の記録で食事量、水分量を把握し、受診時はできる限り血液検査をしていただいたり、月1回体重測定を行い健康状態を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後、口腔ケアを実施し、ご本人の状態にあつたケアを行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を確認し、1人1人の排泄リズムを把握して、トイレの声かけ誘導を行っている。	脇抱え、シルバーカー、車いすなど、トイレまでの往復はそれぞれです。それでも「立位がたもてればトイレで」を目標としており、以前はオムツの業者を招いて講習を受けてもいて、夏場の蒸れや本人の状態から変更があれば、家族にも相談するようにしています	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を確認し、排泄状態を把握し、1人1人に合わせた運動や水分摂取を行う。便秘が続く場合は主治医に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を楽しめる様、会話を重視し、週3回個々に沿った支援を行っている。ハーブを取り入れた入浴を実施している。	法定にプラス1日加え、入浴は週3回を目安としています。マンツーマンとなれる貴重な機会として、心むおしゃべりが弾むよう職員は気遣っています。ハーブを植えていて、利用者が摘んだものを干して浴槽に浮かべ、香りを楽しむ日もあります	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況に合わせ、本人が快適に眠れる様に室温や照明を調整し、安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が徹底して管理し、介護職員と連携を図り、服薬支援に努めている。また、薬についての講習も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の意見を聞き、おぼん拭きや洗濯物たたみなどを職員と一緒にしている。散歩やドライブなどを行い支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節感を大事にして、外出レクや施設内で行える行事を計画し支援している。	花見など季節に合わせたものや、「行きたい」「食べたい」の声に呼応しての外出が実施されています。散歩を常習化させたり、回数をカウントするといったことはありませんが、野菜を育てていて、「水をかけに行こうか」と自然な声かけで外気浴を促す試みもあります	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の利用者様は財布を持っていただいております。移動スーパーなどで自らお金を使い、買い物できる様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	スマートフォンやタブレットを使い、テレビ電話などお互いの顔を見ながらお話をできる様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各フロアの室温度計を確認し、不快感のない室内温度の徹底に努めている。	窓を常時開けて温度調整はエアコンでおこなひ、清掃は専門の職員がいて、清潔を担保しています。また音楽療法では童謡や昭和の演歌が共用空間に満る日が月3回あります。YouTubeも活用して毎日なにかしらの音楽は流れていて、活気ある共用空間です	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	定期的に席替えを行い、他利用者様と楽しく会話できる居場所作りを工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	住み慣れた自宅で使用されていた物や思い入れのある物を持ってきていただき、居心地良く過ごせるよう支援している。	あるべき場所にモノをきちんと置いていて一目で「几帳面なんですね」ということが判る、整理整頓が行き届いた部屋もあれば、「自由にしているんだな」という居室もあって、清潔さに配慮しつつも本人本位の生活となるよう支援していることが伝わります	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所がわかるように大きく「トイレ」の文字やしるしを付け夜間帯はドア付近に照明を置き、自立した生活が送れるよう工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295400143		
法人名	有限会社ジュコウ		
事業所名	あつたか広場一会 3F		
所在地	静岡県島田市東町1116		
自己評価作成日	令和6年6月24日	評価結果市町村受理日	令和6年10月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajirokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanji=true&jiyogyoCd=2295400143-00&serviceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和6年7月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナが5類になり、徐々にではあるが面会や外出などを緩和し、ご家族様との面会やレクリエーションとして認知症カフェを毎月第3土曜日に開催。しまトレも毎週金曜日に開催するなど、他にも花見などのドライブ、感染症対策をしながら焼津の喫茶店にナポリタンと超特大のプリンを食べに行ったり、蓬萊橋への外出や音楽療法など施設内外での活動を増やし入所者様の生活の質の向上に向けて支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

5類に移行して再開を果たした島トレは、移動スーパー「とくし丸」の来所日に合わせる工夫で活気を増したほか、認知症カフェ活動後の小腹を満たすために始めたカレー提供は、島トレの参加者も増える相乗効果となっています。移動スーパーの品揃えは豊富ですが、利用者にはバナナと黒はんぺんが人気で、一方地域からの島トレ参加者も総菜を買って帰るのを楽しみにしている様子です。身体を動かす機会とともに地域交流の場があり、買い物を通じて社会参加を続けることができ、さらには音楽療法や喫茶店訪問といった外出企画が繰り返しにあり、多様なケアサービスとおもてなし精神によって利用者の笑顔が生まれていることを視認しまし

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定期的に理念を把握できているかを確認している他、各フロア入所者様に見える所に貼付し周知している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	週1回、施設の駐車場に移動スーパーが来てくれる他、月1回認知症カフェを開催し近隣の方々と交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座や認知症カフェなどを開催し、認知症への理解をしていただける様に対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を活かし、サービス向上への意見を各参加者よりいただき、地域貢献に取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市と連携が図れるところは日頃より協力させていただき、連携を図っている。また、市の会議や運営推進会議を活用して質問している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会にて身体拘束廃止への研修やケアの内容を精査して常に拘束ゼロに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し、高齢者虐待防止法について研修を行っている。また入所者様が事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い防止の努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各種制度について、研修を行い理解を深めている。またフロア会議を利用し必要性についても話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、しっかり説明し、納得していただいている。また、説明後でも納得がいかなければ説明する事を伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3か月に1度近況報告を出し、入所者様の様子を伝えている。その他LINEを活用し意見を反映している。また、毎月あったか広場通信を郵送している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回全体会議、フロア会議を開催し、職員の意見を聞ける機会を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月第3火曜日に全体会議を開催し、職員の意見を聞く機会を作っている。また、職員にアンケートをとり、具体的な意見を把握するように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月社内研修を行い、スキルアップを図っている。必要時は外部講師に来て頂いたり外部研修への参加を推進している。介護技術に関してはアセッサーを持っている職員によるOJTを行い質の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	包括支援センター主催の研修、交流会への参加や2ヶ月に1回のグループホームの連絡会にも参加し、交流を図っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にヒアリングをご家族に記入していただき、ご本人の好きなものや嫌いなもの等を把握し、安心を確保している。また、居室担当を決めご本人の要望になるべく応えるよう心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	担当者会議を開催し、ケアマネ、介護職員がご家族様の要望を聞きケアに活用している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の意思、ご家族の要望など話ができる環境作りを心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のできる事、できない事を一緒に考え支えあう環境を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月あつたか広場通信を発行し出来事を共有している。必要時は電話やメールまたはLINEで連絡している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人と電話やスマホを使用して支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人1人の個性を把握して、関わりあえる環境作りやレクリエーションを行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、地域定着という事もあり、ご家族等の相談支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴時やレクリエーション、余暇時間を利用し、できる限りの思いを聞き、対応内容を職員、ご家族と検討し、対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族様に生活歴などを聞かせていただき、サービス提供に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々ご本人の状態観察を徹底し、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロア会議、担当者会議でカンファレンスを行い、職員で話し合い計画作成を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画記録、排泄記録、日報、申し送り等の記録を徹底し、情報の共有を図り実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人に聞き取りをし、ご家族様が対応できないことを柔軟に対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に数回音楽療法の先生を招いたり、週1回移動スーパーにてご本人が買い物出来るように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携を図り、適切な医療を受けられる様にご本人、ご家族様を支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に日々の状態を伝え相談できる環境を作っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護サマリーを作成し、病院関係者と協働できる様努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人とご家族様の意見、意向を伺い主治医の意見相談などをして、支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを定期的に再確認し、年1回AEDの操作方法を含めた救急講習を行い実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年2回総合訓練を行い、地域の消防団の方や消防署の方々と連携を図り、災害時の対応を確認している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人に配慮した声かけをし、入浴、排せつ等はプライバシーに充分注意して行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が自己決定が出来るように伝えやすい環境づくりを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の事を知り、レクリエーションや入浴などを本人の希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1~2回訪問理美容に来ていただいたり、ご本人の好みに合わせ、実現できるように支援している。また、美容部員のボランティアに来てもらいおしゃれができる様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事やおやつの準備、片付けなどご本人に伺いながら手伝っていただき、食事を楽しむ支援をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の記録で食事量、水分量を把握し、受診時はできる限り血液検査をしていただいたり、月1回体重測定を行い健康状態を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後、口腔ケアを実施し、ご本人の状態にあったケアを行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を確認し、1人1人の排泄リズムを把握して、トイレの声かけ誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を確認し、排泄状態を把握し、1人1人に合わせた運動や水分摂取を行う。便秘が続く場合は主治医に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を楽しめる様、会話を重視し、週3回個々に沿った支援を行っている。ハーブを取り入れた入浴を実施している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況に合わせて、本人が快適に眠れる様に室温や照明を調整し、安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が徹底して管理し、介護職員と連携を図り、服薬支援に努めている。また、薬についての講習も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の意見を聞き、おぼん拭きや洗濯物たたみなどを職員と一緒にしている。散歩やドライブなどを行い支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節感を大事にして、外出レクや施設内で行える行事を計画し支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の利用者様は財布を持っていただいております。移動スーパーなどで自らお金を使い、買い物できる様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	スマートフォンやタブレットを使い、テレビ電話などお互いの顔を見ながらお話をできる様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各フロアの室温度計を確認し、不快感のない室内温度の徹底に努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	定期的に席替えを行い、他利用者様と楽しく会話できる居場所作りを工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	住み慣れた自宅で使用されていた物や思い入れのある物を持ってきていただき、居心地良く過ごせるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所がわかるように大きく「トイレ」の文字やしるしを付け夜間帯はドア付近に照明を置き、自立した生活が送れるよう工夫している。		